

3 対象地域の歴史とおいたち

(1) 地域の歴史の経過

南部丘陵の地域の歴史について、おもに「堺市美術工芸品調査報告書第二集『上神谷上条・美木多地区の美術工芸』(堺市教育委員会)」をもとに記述する。

1) 古代

- ・ 須恵器生産地である陶邑の中心部に位置し、生産に従事する人々が営んでいた集落跡も発見されている。
- ・ 列島で最も早い段階で朝鮮半島からの須恵器生産の技術導入が行われた地域の1つ。

2) 八世紀

- ・ 在地の郡司層を中心とした仏教信仰が盛ん。
- ・ 高僧行基(大鳥郡蜂田郷出身)のもとに結縁し、「知識」(善知識・仏教の後援者)として写経や造寺、造仏、社会事業などに参加。

3) 中世

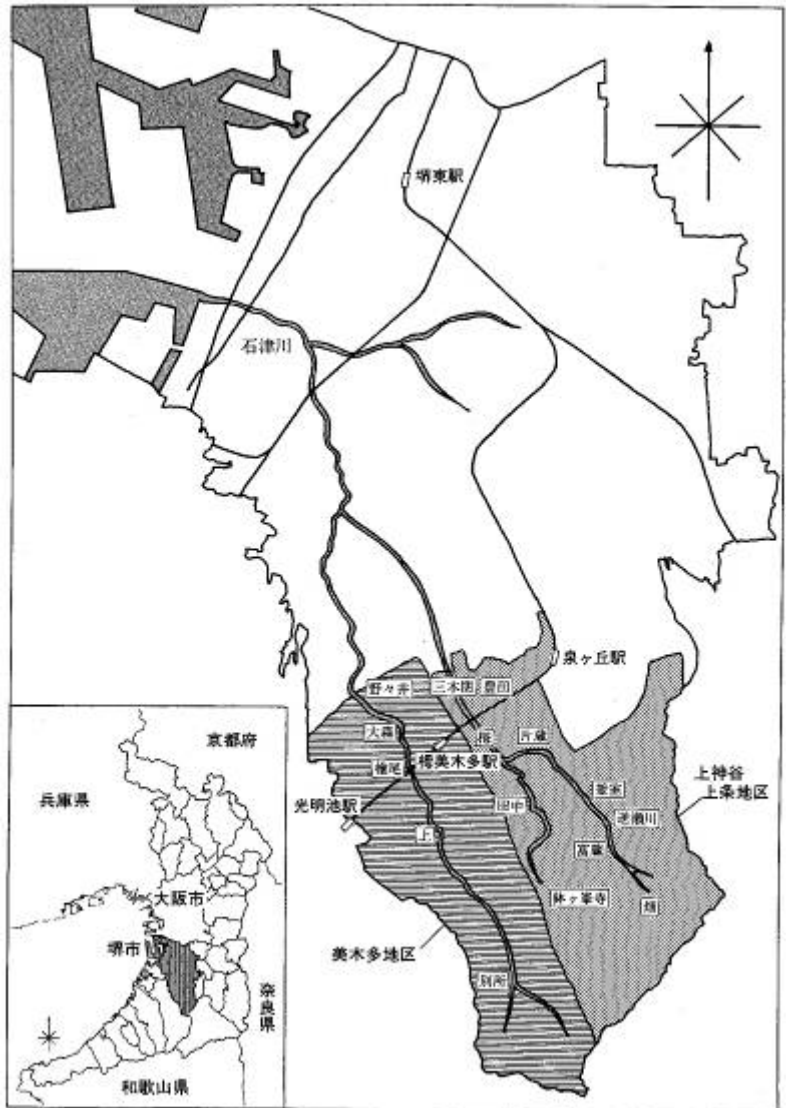
- ・ 荘園支配を基本としながらも、在地に成長しつつある武士層が鎌倉幕府と主従関係を結び、御家人として活躍。
- ・ 南北朝内乱期には、若松荘・陶器荘とも戦乱の舞台。

4) 江戸時代

- ・ 幕府の宗教政策によって上神谷下条・陶器地区の寺社も触頭制度の中に編成されていく。

5) 昭和以前

- ・ 地域の大部分が丘陵地で、北部から和田川、石津川の流れる谷合にかけて農地が広がり、その中に集落が点在している。



資料：「堺市美術工芸品調査報告書第二集『上神谷上条・美木多地区の美術工芸』(堺市教育委員会)」

図 1.3.1 南部丘陵の歴史的参考図(上神谷上条、美木多地区)

6) 昭和 30 年代

- ・ 昭和 34 年に泉ヶ丘町が、昭和 36 年に福泉町が堺市に編入される。
- ・ 酪農団地の整備 (昭和 30 年代)。
- ・ 公園墓地の整備 (昭和 37 年～)。

7) 昭和 40 年代～平成期

- ・ 昭和 40 年代から泉北ニュータウンが整備され、昭和 46 年に泉北高速鉄道が泉ヶ丘まで、昭和 52 年には光明池まで整備される。
- ・ 泉北ニュータウン間の集落地は、ニュータウン、鉄道などの整備にともない拡大しつつある。
- ・ 下石津泉ヶ丘線、檜尾岩室線などの主要幹線道路が整備され、平成 5 年には、近畿自動車道の堺インターチェンジ～岸和田和泉インターチェンジ間が開通する。
- ・ ゴルフ場開発 (3 箇所; 昭和 50 年代～)。
- ・ 鉢ヶ峯 (昭和 56 年～)、長峰 (昭和 59 年～) のほ場整備。

8) 平成期～

- ・ ゆとりとふれあいの場構想 (平成 7 年) の策定。
- ・ フォレストガーデンの整備。
- ・ 東西道路の整備 (整備中)。
- ・ 堺ハーベストの丘の整備・開設 (平成 12 年)。
- ・ 堺自然ふれあいの森の整備・開設 (平成 18 年)。

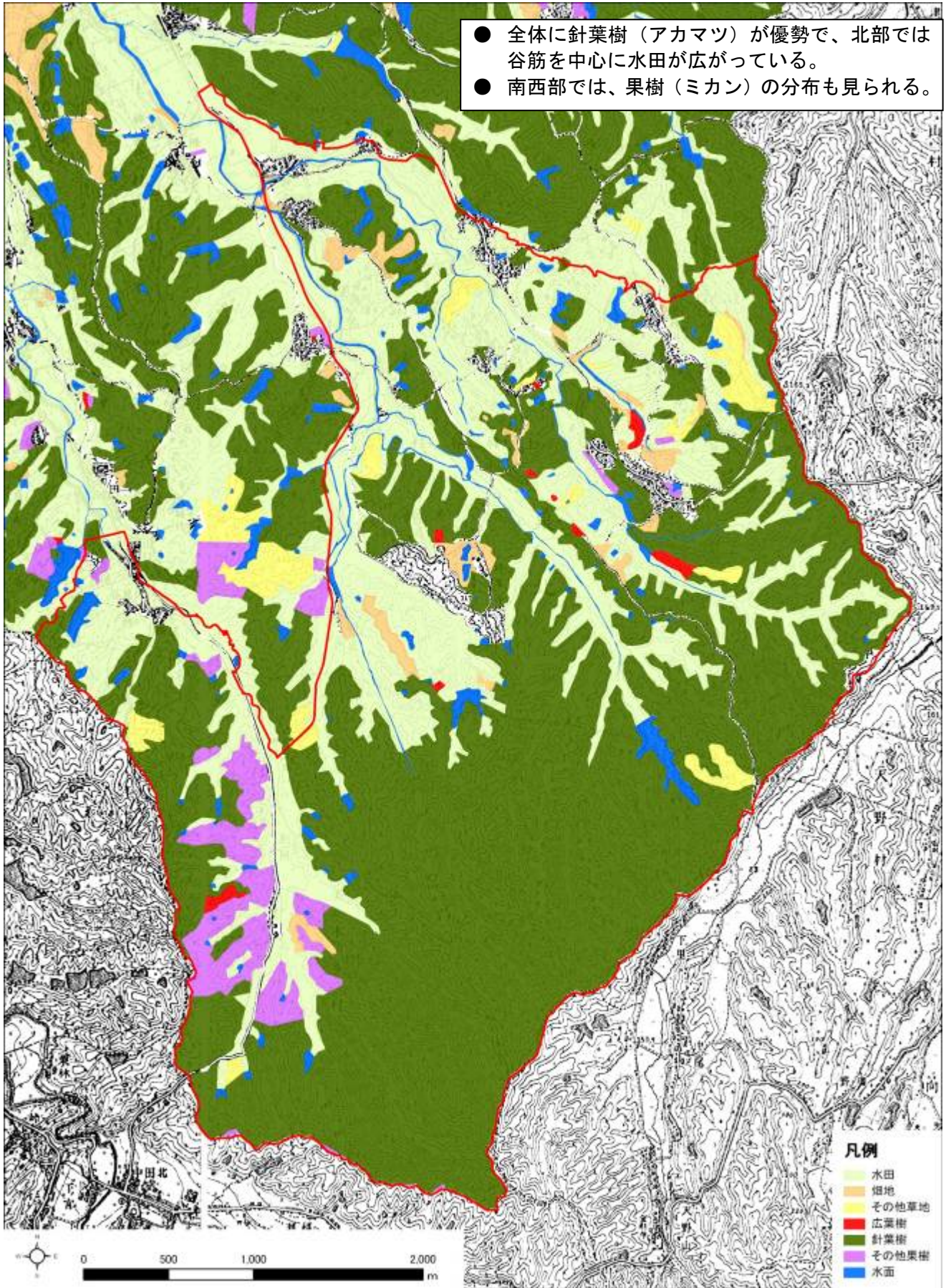
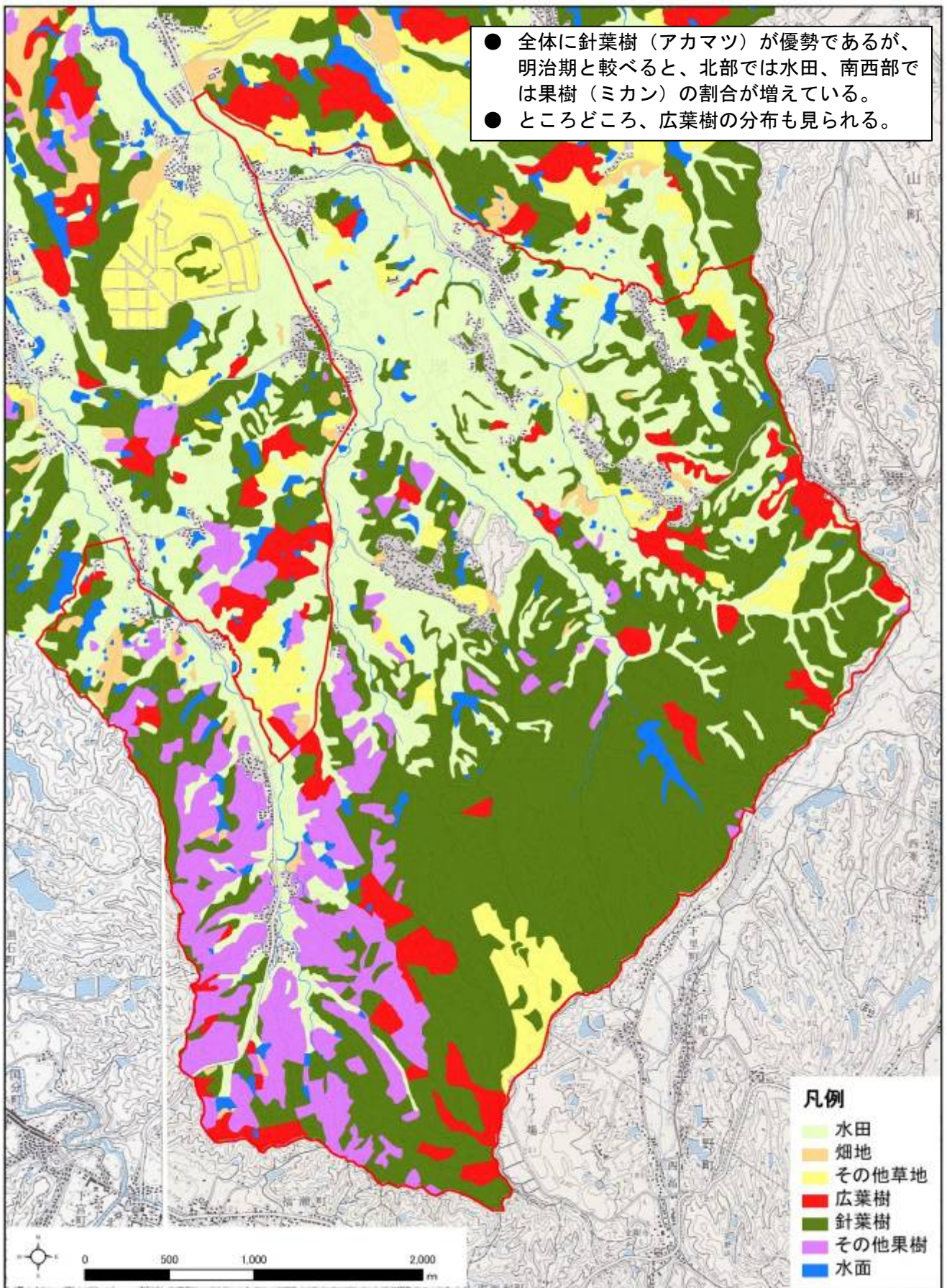


図 1.3.2 明治期の土地利用現況図



資料：二万五千分の一地形図（昭和42年改測）国土地理院発行

図 1.3.3 昭和40年代の土地利用現況図

(2) おもな歴史文化資源

1) 櫻井神社

- ・ 上神谷八幡宮とも称せられ、応神天皇、仲哀天皇、神功皇后を祀っている。
- ・ 拝殿が鎌倉時代前期の建物で、神社拝殿として最古のもの。国宝。
- ・ 国選択・大阪府指定無形民俗文化財の「こおどり」が中世の頃から受け継がれてきた貴重な神事舞踊。
- ・ 「こおどり」は、地元から発生したものではなく、外から流行り踊り的なものが、農村である上神谷で定着したもの。和泉市や和歌山のかつらぎ市でも同様の踊りが残っている。基本的に豊作などへの祈りや感謝。こおどりの「こ」は、雨乞いのこ、子どものこ、ツツミのこ、そして神のこの意味と言われている。
- ・ もともと國神社（天照大神；場所は法道寺の横）で行っていたものが、神社合祀により櫻井神社に統合され、櫻井神社で行うようになった（上神谷の9つの神社が櫻井神社に合祀）。



櫻井神社 拝殿（国宝）



国選択・大阪府指定無形民俗文化財のこおどり
（櫻井神社の秋祭りの例大祭）

2) 感應寺（日蓮宗）

- ・ 上神谷の妙見さん。妙見堂が建てられたのは1658年。当時、妙見信仰が盛んで、富蔵には宿屋があり、多くの人でにぎわった。
- ・ 北は能勢妙見、東は星田妙見、南は上神谷妙見。
- ・ 妙見とは、北斗星を祭り、国土を守り、災害消滅の祈願仏。

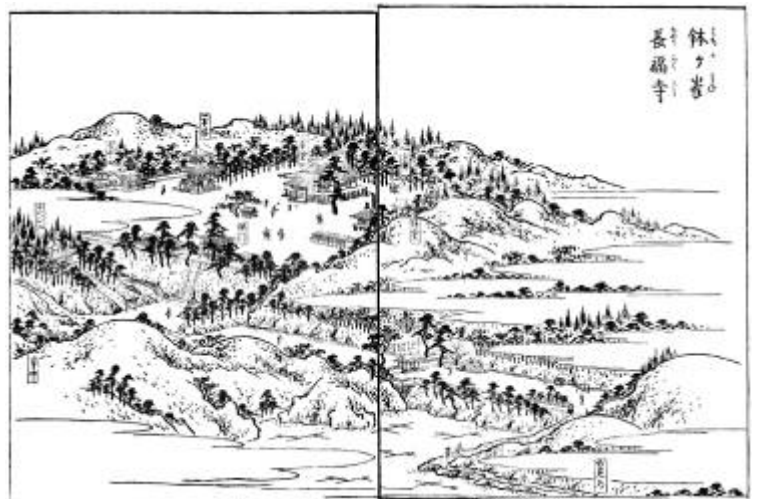


資料：和泉名所図会

図 1.3.4 歴史資料図（感應寺）

3) 法道寺

- ・ 天智天皇9年（670年）、法道仙人が当山に来て、飛鉢の法を行い、その靈驗あらたかなるを聞き、建立された閑谷院長福寺を前身とする。
- ・ 当時は、49の塔頭寺院を擁する大寺。



資料：和泉名所図会

図 1.3.5 歴史資料図（法道寺）

4) 「上神谷」という地名について

出典：創立 100 周年記念誌（堺市立上神谷小学校）

- ・ 上神谷（にわだに）の地域は、昔は「和泉国大鳥郡上神郷（かみみわのさと）」と称した。
- ・ 大鳥郡は、ヤマトタケルノミコトという英雄が亡くなった時、大きな白鳥となって（化身）、今の大鳥神社に舞い降りたという神話があり、そこから大鳥神社という名前となった。
- ・ この白鳥は、まず鉢ヶ峯に降り（國神社の場所と言われている）、榊をとって、富蔵山の上を飛んで、大鳥神社の場所に舞い降りたと言われている。
- ・ この鉢ヶ峯の榊をとった場所が「上神郷（かみみわのさと）」である。
- ・ 古い時代には、神のことを「みわ」と言ったので、「上神郷」とは、神さまが降りて来られたところという意味であった。そして、「みわ」が「にわ」に変化して、「にわだに」となった。
- ・ 飛鳥時代の古事記や日本書紀に、崇神天皇に関する伝説では、大和の三輪と鉢ヶ峯、陶器荘が関係する話が出ている。大和の三輪地方は大昔から酒の産地として有名なところで、陶器荘は有名な陶器の産地で酒かめを焼いていた。三輪・陶器・上神は深い関係があったと推測される。

5) 上神谷音頭

出典：創立 100 周年記念誌（堺市立上神谷小学校）。昭和 20～30 年代と推定される。

上神谷音頭	作詞 小谷 方明 作曲・振付 池西 富子
1、ここは上神谷 お米の名所 谷の奥にもエーヤ 秋はこがねの花がさく 花がさく ササ 花がさく	4、厄をはらうなら 妙見さんに 二月節分エーヤ わしとおまえの星まつり 星まつり ササ星まつり
2、村の氏神 桜井神社 だんじりひいてエーヤ たいこたたいて秋まつり 秋まつり ササ 秋まつり	5、月が出た出た まんまるくまるく おどる輪のようにエーヤ 月が出ました金剛山
3、見たか 聞いたか こおどりばやし 赤と黒とのエーヤ 兎が出てきて舞いおどる	

6) 昭和時代の上神谷の地域

- ・ 里山の木は、かまどの薪、松の落ち葉を焚きつけ用に使った。
- ・ ホタル、ヤマユリ、カワバタモロコ、神社の森にはミミズクも来た。
- ・ 落ち葉すきは子どもの作業として実施。正月前にはシダをとりに行った。
- ・ 雨乞いの儀式も行った。ため池で泳いだ。
- ・ 昔は地名が細かく付いていた。地域の中でどこに何があるかをよく知っていた。
（櫻井神社宮司談）